

ホールケーキのありがたどか

151122

7号のクリスマスケーキを注文する

7号は当店の標準品ではありませんから

1ヶ月前までに願いますと言われ

うーむと呻る

電話口では顔が見えない

見えなくて良かったと

お店に出かけて確信した

綺麗なお姉さんだったからだ

崇拜対象から標準品にならなくて

良かったね

仏壇のお茶を庭先で振ると

お祭りしてくれない神様仏様が

飲むことが出来るから

無名の八百万の神様にも礼を尽くす

唯一神を祝うクリスマスケーキを神様のような振りして

みんなで喰らう日だなんて僕は思わないけど

7号ケーキを注文する時には気がつかなかったことだ

国宝でも重文でもない7号ケーキを焼いてデコレーションする職人

綺麗なお姉さんは、赤いイチゴの配置を考えない

彼女の深い信仰心が遅疑逡巡を許さない

機械的に見えるけれど1ミリも位置を違えない正確さで置いてゆく
まるでデコレーションロボットみたいと口に出していけないほど見事な手つきだ
なんにも知らずに喰らう連中には分からないことも多いのだと
電話口で僕は実感した
ケーキにまつわる話には不思議なことも多いが
大抵はスイートな結末で終わる
唯一神と八百万の神が仲良くしている限り味は落ちない
信仰の対象の森や山はいつまでも同じ佇まいでありたい
和歌でも詠みたいほど君たちも純粹になる甘い日でもあるのだと
ケーキ職人の綺麗なお姉さんは考えている
そんなことあるものかという奴は、ケーキに頭をぶつけて
あの世へ行きなさい
神様が待っているとは思うなよと

意地の悪い悪魔の手下が胡椒をケーキに振りかけている
仏様はそれを黙ってみているが
神様にはすぐに報告されているから
マイナンバー制度が整って以来
悪魔と言えども
その手下と言えども
プライバシーは守れなくなってしまったと
7号ケーキの焼きたての台が眩いていると
その上にグラニュー糖が撒かれて
白いクリームが乗せられ
赤いイチゴが並べられ
あっという間に、クリスマスケーキが完成した
注文した僕は、慌てて自転車を飛ばして受け取りに行ったのだ

以上は嘘偽り無く本当のお話です。

初出「即興ゴルコンダ(仮)」

<http://golconda.bbs.fc2.com/>

タイトルは、さわ田マヨネさん。